

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、共有している。個々に意識はしているが、実践に繋がっていない部分も見られる。	各玄関に理念が掲示されている。「個人を尊重し、自分にしてほしいことを実践する」を職員は意識して日常の関わりを行ってはいるが、周知が十分でなく、どの程度実践に繋がっているのか把握出来ていない現状が窺える。	今後は理念を全職員で再確認し、会議等で共有しながら意識付けを行い、日々の関わりの中でも実践して行かれることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のごみ当番や回覧板を回すなど地域の一員としてのかかわりを持っている。また、事業所の様子も月1回、広報紙を回覧で発信している。コロナの影響で交流は行っていない。	今年度はコロナ禍での感染予防の観点から交流は行えていないが、利用者が職員と一緒にゴミ出しや、回覧板のお届けを行っており、月に一回広報誌の回覧をするなど、地域との関わりを持っている。町内会長さんには運営推進会議出席の他に、町内行事参加の声かけも行ってもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への普及は行っていない。広報紙を通じた情報発信は行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で、運営推進会議は資料配布での報告となっており、話し合いは行っていない。	運営推進会議は、今年度は感染予防の観点から資料配布となり、話し合いは行われてはいないが、ヒヤリハットの報告について大まかであったものを詳細に記載する等、頂いた意見をサービス向上に活かすことに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の資料を都度提出しており、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は資料配布での報告となっているが、毎回持参して事業所の実情やヒヤリハットの内容を伝え意見を頂いている。感染症対策の相談等、協力関係を築く取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会を中心に状況把握や研修会を行い、全職員が理解し、身体拘束をしないケアに努めている。	権利擁護委員会を中心にリモート研修を行い、アンケートにまとめ報告している。「ちょっと待って」という言葉の制限をどんな場面で使うか職員間で話し合い、日頃の声かけを意識するなど、各ユニットで課題を決め研修も行っている。玄関の施錠、センサーの使用もなく、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護委員会を中心に指針の研修を行うとともに、互いに確認しあい、注意喚起を図っている	権利擁護委員会を中心に、虐待防止の指針の読み合わせ研修を行っている。日常の関わりの中で、職員間でお互いに確認し、必要があれば管理者が注意するなど、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者はいるが、職員が学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については管理者が行っている。事前面接時、契約時には利用料金や、生活に関する説明を十分に行い、理解・納得が得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は普段の生活の中で、ご家族は都度の連絡時や、面会時などで意見を伺っており、サービスに反映するように努めている。外部への発信は運営推進会議をその機会ととらえている。	利用者は日常の会話の中で、家族は連絡時や面会時に意見を伺っている。「食べたいものはありますか」等、具体的な質問をすることで、利用者も話しやすく、そこから胸の内を聞き取る工夫をしている。また、聞き取った内容はパソコン内に記録し、申し送り機能を使うことで全職員が共有できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で意見や提案できる機会を持ち反映している	管理者は月に一回のスタッフ会議にて、意見や提案を聞く機会を設けている。会議には出来るだけ全員が参加出来るよう開催の時間を配慮する、ユニットのスタッフを交代して情報共有するなどの工夫を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の見直しにより、様々な働き方に対応した制度に改善された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3月以降、コロナの影響により、法人内外の集合研修が実施できていない。資料読み合わせや自己学習、動画視聴により研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内GH部会研修で毎年定期的な研修会を行った。昨年度は職員の交換研修を実施。今年度はコロナ禍により実施できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が事前の情報を細かく収集し、現場につなげている。新しい施設に早く慣れていただけるよう耳を傾け受け入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成者が中心となり要望を聞き入れ、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報から新しい環境に慣れていただくための話し合いの機会を多く持ち、必要な支援を見極めている。必要に応じて、外部サービスの提案(訪問マッサージなど)も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がどうしたいか確認し、対応するように心がけている		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を十分に取りながら、職員と共に利用者を支えていく関係を築き、本人と家族とのつながりも大切にしている	感染防止の観点から面会が思うようにできていない分、居室担当者が定期的に電話連絡したり、毎月の広報誌を送付する際、日常の様子を撮影した写真を同封するなど、共に支えていく関係が途切れないよう努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で、面会や外出の機会もままならない状況ではあるが、関係性が途切れないように努めている	感染防止の観点から面会や外出ができていないが、定期受診には家族に付き添いをお願いする等の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介しかかわりを持ちながら過ごせるよう努めている。職員間で情報共有し、トラブルにならないよう対応してる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に支援が終了するケースがほとんどだが、入院や他施設入所による退所時にはそれぞれのソーシャルワーカーと連携を取り、その後の生活が困らないよう支援している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメントツールを利用し、本人の希望や意向の把握に努め、検討している	センター方式の勉強会を実施している。アセスメントはスタッフ複数で行うことで、一人ひとりを多方面から見つめ、より良い意向の把握ができるよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントツールを利用し、把握に努めるとともに、生活歴や生活環境が把握できるよう、計画作成担当者が中心に入所前の自宅に訪問したり、入所前のサービス事業所に訪問し情報収集している	計画作成担当者が入所前に生活歴やなじみの暮らし方をセンター方式によるアセスメントツールを利用し、把握に努めている。それを基に居室環境を整備し、なじみの環境で生活出来るよう活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、職員間で情報共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍により、家族を含めた話し合いの機会の場は持っていない。必要に応じて電話で確認している。状態変化時や課題発生時には(本人)、計画作成担当者、担当職員(介護)でカンファレンスを行い改善に努めている	日常の関わりの中で、利用者の思いや要望を把握し、家族には必要に応じて電話で意向の確認や介護計画の説明等を行っている。コロナ禍で家族の面会がかなわないため、計画作成担当者と担当職員等で話し合いながら、利用者の暮らしを反映した介護計画となるよう作成・見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなど記録に残し情報共有している。また、毎月のモニタリングにより見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所だけで抱え込まず、必要に応じて家族の協力を得たり、外部サービスの利用を行っている(訪問歯科診療、訪問マッサージなど)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板を届けに近所の家に出かける程度で現状(コロナ禍)では地域資源の活用は難しい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に沿いながら医療機関への受診を行っている。また、受診の際には施設からの情報提供書を用意し、医療機関とも情報共有に努めている	協力病院への定期受診は事業所職員が付き添いを行っている。在宅からのかかりつけ医を希望された場合は基本的に家族に付き添いをお願いしている。受診の際には事業所から医師へ情報提供が行われ、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師の配置はないため、必要に応じて、協力医療機関の看護師に相談したり、母体施設の看護師に相談し受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供表にて情報提供を行っている。また、退院後にこれまでの生活ができるよう、できるだけ早期に退院できるよう病院関係者と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、施設でできることを家族に伝え、状態変化時(介護度など)にはその後の生活について相談している。必要に応じて、老人保健施設や特養への申請について家族と検討している	契約時に利用者・家族に重度化した場合や終末期の事業所のあり方や支援について説明を行い了承を得ている。基本的には看取りは行っていないため、重度化や医療が必要になった場合は事業所でできる限りの支援に努め、家族や医療機関、他施設と連携しながら支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急法の研修を行っている(今年度は書面での研修)施設内にもAEDを設置している	緊急時のマニュアルが整備されており、事業所の職員は緊急時や急変時の初期対応について訓練を行っている。事業所内にはAEDが設置されている他、緊急時に速やかに対応できるよう見やすい所に緊急連絡網を掲示し緊急時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する避難訓練は定期的に行っている。昨年は地域の方も参加し訓練を実施した。地震や水害訓練は行っていない。訓練は下期に予定。	災害マニュアルが整備されており、利用者・職員が参加し定期的に避難訓練を実施している。今年度は新型コロナウイルス対策のため地域の消防団との防災訓練は中止となったが、日頃から協力体制が築かれている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを大切に考え、利用者のペースに合わせて声掛けや対応をしている。生活の場であるため、声掛けのタイミングや話の内容についても場所を選んでいる	利用者一人ひとりの人格を尊重し、気持ちを大切にしながら日々の支援を行っている。職員は利用者の尊厳やプライバシーを損ねないよう接遇研修を受け、常に平常心で冷静に対応できるよう自らの対応を見つめ直し、利用者中心の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを汲んで、先回りするような声掛けはせず、本人が自分の思いやその時の気持ちを言葉にできるよう声掛けしたり雰囲気作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた生活が送れるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や衣類の選択などご本人に選択していただき、好みに合った身だしなみができるように支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、片付けなどできることは一緒に行っている。また、誕生日や行事などは希望を聞きながら楽しみなものになるよう努めている	朝食と夕食は業者から食材が届き、昼食は食事係が献立を考えている。利用者の年齢層や身体状況を考慮し、A棟とB棟のユニットで異なる献立となっており、中庭の畑で採れた新鮮な野菜を使用する等、季節感あふれる食事が提供されている。また、誕生日や行事食などは希望を聞きながら食事を楽しむ工夫が行われている。今年度は中庭で蕎麦を栽培しており、石臼で挽いて年越し蕎麦として楽しむ計画をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人が役割を持ち、責任感をもって取り組み、満足・達成感を感じてもらったり一緒に参加する楽しみを持ってもらえるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて、声掛け、準備等の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録により、一人一人の排泄パターンを把握し対応している	利用者一人ひとりの排泄状態を観察し、排泄パターンチェック表に記録している。便秘傾向の利用者には日頃から十分に水分が摂れるよう支援している。事業所では、できるだけおむつを使用しないよう、自立に向けた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、全員にヨーグルトを提供、また、10時には牛乳を提供している。コロナ禍により外出の機会が減少しているため、室内での運動を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴の回数については、希望を聞きながら調整したり、一人一人の年齢や体調に合わせて入浴の調整をしている。また、一人一人ゆっくりと入浴していただき楽しみの一つとなっている	入浴回数やタイミングは、利用者一人ひとりの希望を聞きながら可能な限り柔軟に対応している。職員はマンツーマンで利用者に関わり、ゆっくりと入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう、日中の活動の促しや居室の温度設定、明るさの設定を個々に行っている。また、日中も体調に合わせて休息を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を見て理解に努めている。内服に関する事故が多発したため、服薬マニュアルの再確認を行い、再発防止に努めている。服薬内容の変更時には、本人が心配ないように説明し服薬していただいている。また、状態変化時には受診に繋げている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を活かし役割をもって過ごしていただいている。施設内の行事で楽しみごとや気分転換ができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、日常的な外出の支援はできていない。中庭に出て気分転換を図る程度にとどまっている	今年は新型コロナウイルス対応のため、外出行事や家族の面会等も中止となっている。職員はそんな中でも、中庭でお茶会をしたり、シャボン玉や流しそうめんなどを行い、利用者に楽しんでもらう工夫をしている。また、天気の良い日には、近所への回覧板届けやゴミ出しに職員と出掛け気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針として現金の預かりや金銭の所持はお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎ、手紙の受け渡しは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のカレンダーづくりや季節の花を飾るなど季節感を感じていただけるよう配慮している。リビングから中庭が見え、畑やベンチで日光浴ができ、季節感を感じることができるようになっている	全体的に木調で落ち着いた環境である。リビングには大きな掃出しの窓があり、中庭に出られるようになっている。リビングから畑の野菜や草花が見え季節を感じる景観となっている。また、壁面には、手作りカレンダーや活動で作った作品が飾られており、居心地よく過ごせる雰囲気作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮して配席している。利用者によっては場所を移動して落ち着いて過ごせるようソファも設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ち込んだり、家族の写真や家具などを持ち込んだりし、その人らしい空間となり心地よく過ごせるよう工夫している	各居室にはベッドとタンスが備え付けられている。入居時に使い慣れた家具を持ち込んだり、家族の写真や作品を飾るなど、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。また、居室のドアに自分で書いた表札を掲げたり、好みの絵や写真を貼ったりと、利用者ができるだけ自立した生活が遅れるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し、できるだけ自力での動作がスムーズに行えるよう段差の解消、手すりの設置をしている。また、トイレの場所が分かりやすく表示したり自室が分かるよう表札や好みの写真を掲示している		